

森六
MORIROKU

**2021年3期 第1四半期
決算説明資料**

東証1部 4249

森六ホールディングス株式会社

2020年8月7日

従業員の安全と事業の継続を最優先に取り組む

- 出張制限、WEB会議、テレワークや時差出勤を継続
- 働き方改革の一環として進めてきた各種制度やインフラを活用

<パーテーションの設置>



<マスク着用と社会的距離>



<武漢での感染防止対策の様子>

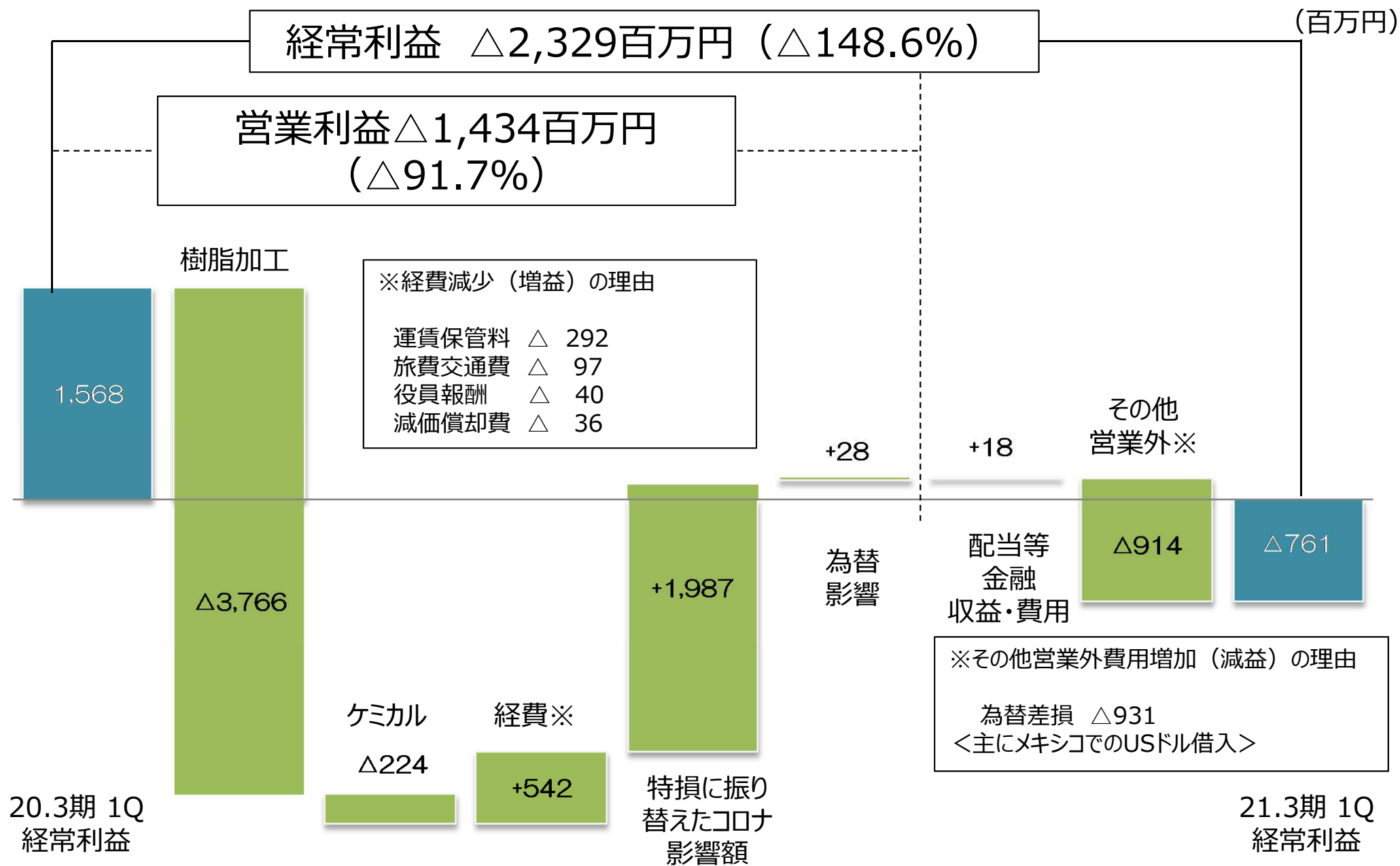


- 製造現場では従業員の安全を最優先し生産を継続
- 6月のメキシコ工場再開により、全工場が稼働を再開

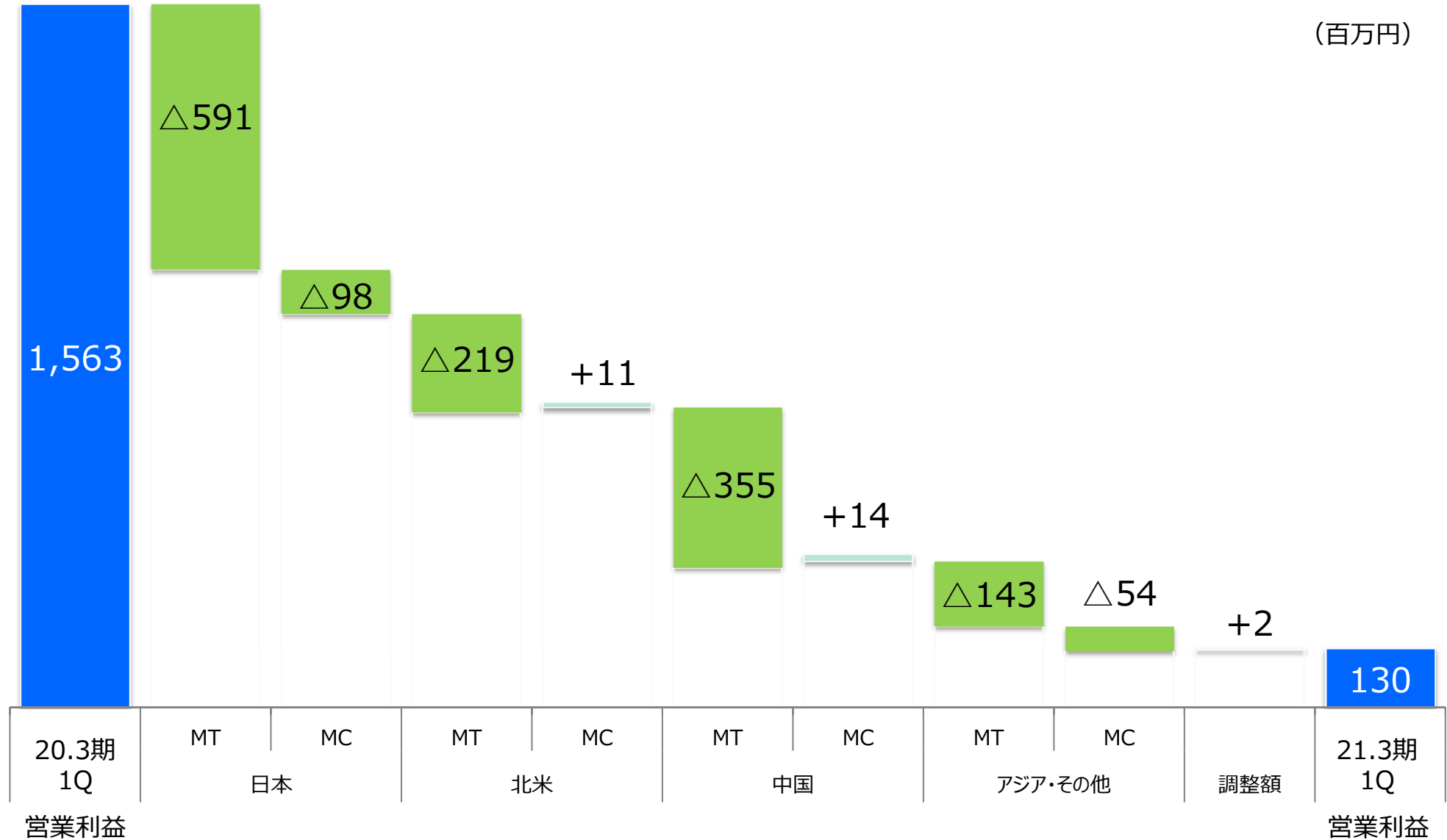
<各拠点の稼働状況（20.7.31時点）>

| 地域 | 生産拠点 | 状況 |
|-----|--------|----|
| 日本 | | 稼働 |
| 北米 | 米国・カナダ | 稼働 |
| | メキシコ | 稼働 |
| アジア | 中国 | 稼働 |
| | インド | 稼働 |
| | フィリピン | 稼働 |
| | タイ | 稼働 |
| | インドネシア | 稼働 |

工場停止期間中の固定費や新型コロナウイルス感染防止に関する直接費用を特別損失に計上



日本は減産に加えて、海外工場停止によるロイヤリティの減少が影響



樹脂加工製品事業

- 原価低減、品質向上による競争力強化
- 雇用確保に留意しながらの人員適正化、生産の自動化・効率化
- 内製化率の向上による付加価値アップ
- 売上減少に応じたコストコントロールを実施するとともに、将来へ向けた研究開発や自動化への設備投資は継続
- 既存顧客以外の販路拡大により1台当たり売上減少（製品構成）へ対応

ケミカル事業

- 中国・アジアへ新たな経営資源投入し拡販（中国内陸部・インド・タイ）
- 完成した四国化工の新工場でのものづくり事業の拡大、付加価値アップ

グループ全体

- RPA化の推進による間接部門の生産性向上

各拠点の生産はすでに再開しており、今後、期末に向けて自動車販売等が徐々に回復していくという前提のもと業績予想を算定

(億円)

| | 20.3期 | 21.3期 (予想) | 増減額 | 前期比 増減率 |
|-----------------|--------|---------------|----------|------------|
| 売上高 | 1,707 | 1,490 | △ 217 | △12.8% |
| 営業利益 | 54 | 38 | △ 16 | △30.9% |
| 営業利益率 | 3.2% | 2.6% | - | - |
| 経常利益 | 56 | 30 | △ 26 | △47.1% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 35 | 2 | △ 33 | △94.3% |
| EPS(円) | 212.89 | 12.07 | △ 200.82 | △94.3% |

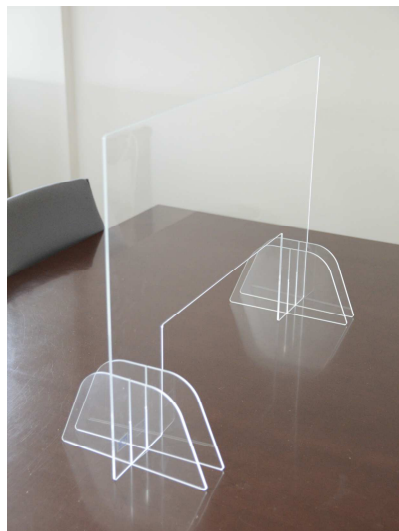
2021年3月期の配当は50.00円

当社は、株主の皆様に対する利益の還元を経営上の重要な施策のひとつとして位置付けており、将来における事業展開と経営環境の変化に対応するために必要な内部留保資金を確保しつつ、安定配当の継続に留意しております。

| | 年間配当金（円） | | | 配当性向 |
|-------------------|--------------|--------------|--------------|---------------|
| | 中間 | 期末 | 合計 | |
| 21.3月期（予想） | 20.00 | 30.00 | 50.00 | 414.3% |
| 20.3月期 | 51.00 | 43.00 | 94.00 | 44.2% |
| 19.3月期 | 47.00 | 47.00 | 94.00 | 25.4% |

CSR活動や環境保護への取組みを強化

新型コロナウイルス感染予防グッズを寄贈



弊社所属の山路晶プロと
共同で、アースモンダミン
カップ大会会場へ飛沫感
染防止パーテーションを寄
贈

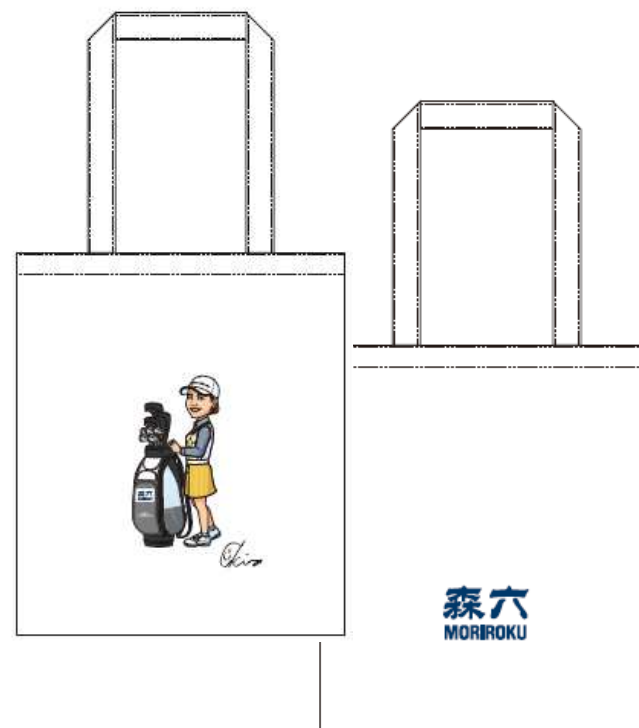
◀ 寄贈した飛沫防止
パーテーション

令和2年7月豪雨災害へ義援金を寄贈

日本赤十字社（本社、福岡県支部、熊本県支
部）を通じて被災された地域への支援として300万円
の義援金を拠出

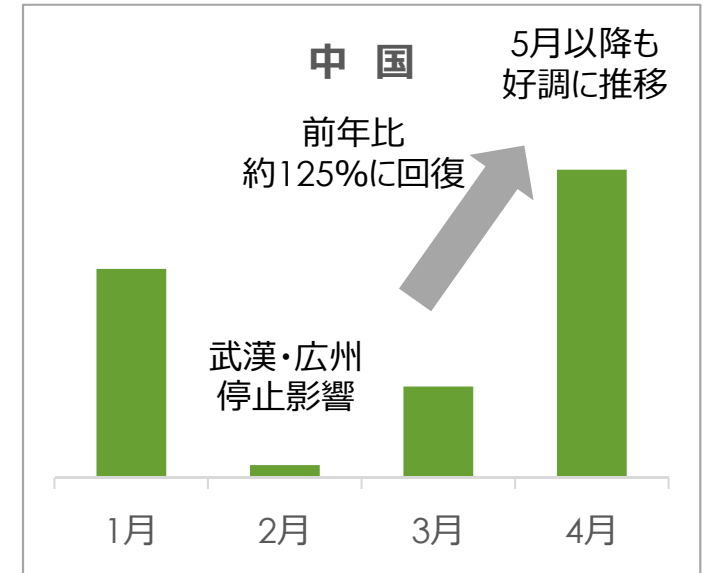
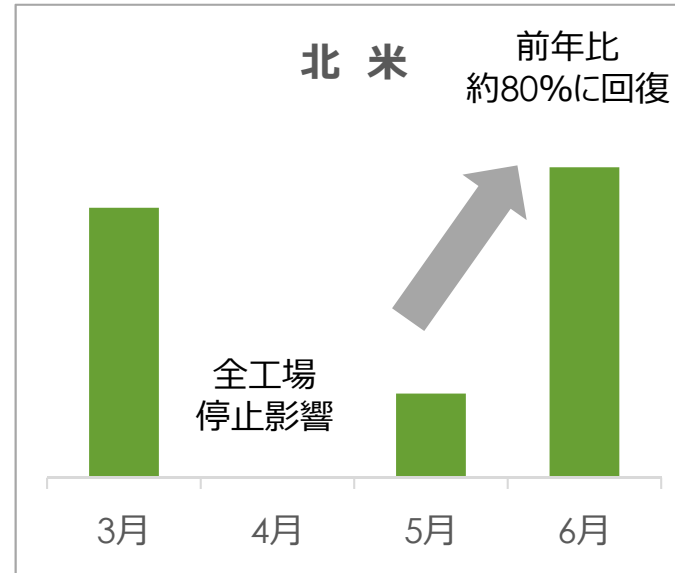
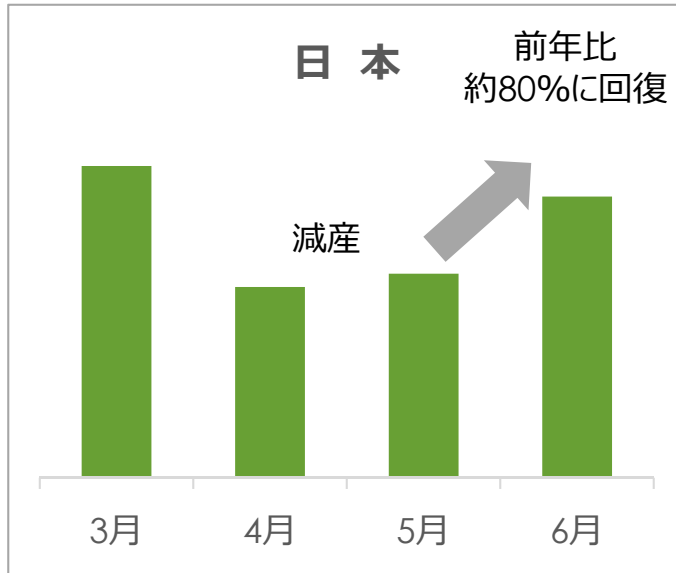
オリジナルエコバッグを株主様に配布

7月のレジ袋有料化に合わせ、環境保護への貢献
を目的として、山路晶プロのイラスト入りオリジナルエコ
バッグを作成し、株主の皆さまへ配布



工場停止や生産台数の減少が発生するも、4月を底に回復基調

【地域別 月次生産状況推移】



- 各国の外出制限や主要顧客の工場停止等の影響を受け、工場停止や生産台数の減少が発生するも、4月を底に回復基調
- 稼働再開後の各工場は円滑に推移しており、商品供給に問題等はなし
- 従業員の雇用維持と安全確保（飛沫対策、テレワーク、WEB会議等）を徹底実施